

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	第二永福ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローク
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図る。

<テーマの設定理由>

当園では開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、継続的に英語活動を実施している。レッスンにおいては、保育者も子どもたちと共に参加し、共に学ぶ姿勢を大切にしてきた。そのため、園児にとっても保育者にとっても、英語は特別なものではなく、日常に存在する身近なことばとして定着している。2024年度は、同一の絵本および同一のメロディによる歌を、日本語と英語の両言語で体験・体感する活動を行った。その結果、子どもたちはことばそのものへの関心を高め、言語の違いや面白さに気づく姿が見られるようになった。2025年度は、子どもたちの主体性をさらに育むことを目的とし、ことばの中でも特に「オノマトペ」に着目した活動を計画している。日本語と英語のオノマトペを比較しながら体験することで、音や響きへの感受性を育て、言語への興味関心をより一層広げていきたいと考えている。また、オノマトペは音やリズムを伴う表現であり、乳児にとっても親しみやすく、発達段階に応じた取り組みが可能なテーマであると捉えている。今後は年齢に応じた実践を積み重ね、言語体験の充実を図っていく予定である。

2. 活動スケジュール

【問いかけ】3, 4, 5歳児クラスでは、保育者がことばについて問いかけた。「私たちが話していることばは、何ということばか知っている?」「私たちが話していることばは、どんな人でも話していると思う?」「私たちが話していることば以外で聞いたことがあることばって何かある?」子どもたちは、「ステファニー先生は、英語を話しているよ」「ママは英語、パパはママとちがう言葉だよ」と人によって話せる言語が異なることを理解していた。また、3歳児、5歳児にはポルトガル語を話す子どもが在籍していることもあり、日本語と英語だけでなく他にも言語があることを知っている子どももいた。

【流れ】英語講師の来園日には、英語で動物の鳴き声の入った歌を歌い、保育者は子どもたちと一緒に参加します。また自由遊びの時間に保育者が日本語で動物の鳴き声の入った歌を歌い、どうぶつ図鑑で動物の本物の鳴き声を皆で聴き、英語講師は子どもたちと一緒に参加します。また皆で一緒に英語で使っている絵カードで《オノマトペ》遊びをします。発話が難しい乳児クラスでも《オノマトペ》の音を聴くことで違いがあることを共有します。

【探究活動の実践と記録】英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者とともに英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当した。

*読み聞かせ：乳児クラス、幼児クラス *歌：乳児クラス、幼児クラス

*手遊び歌：乳児クラス、幼児クラス

【振り返りや共有】毎月月末に英語講師と職員のブリーフィングをおこなっている為、そこで探究活動の共有を行い、次月の問いを考え環境設定や探究活動のスケジュールを話し合う。保育者同士は職員会議で振り返りや共有を行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定した。

【素材】

- * 同じメロディの日本語と英語の歌：「ゆかいな牧場」と"Old McDonald had a farm"
- * 絵カード：動物、乗り物、オノマトペ絵カード
- * どうぶつ図鑑：本当の動物の鳴き声とは？
- * 同じ手遊び歌の日本語バージョンと英語バージョン：「ゲーチョキパーでなにつくろう」と "Rock scissors paper finger play"



4-①探究活動の実践

<活動の内容>

4.5歳児クラス：CD「ゆかいなまきば」を日本語で歌う

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「ゆかいなまきば」を知っている子どもが多く、楽しそうに口ずさむ様子があった。特に動物の鳴き声の時には大きな声で歌い、保育者の手の動きを真似していた。しかし、順番は覚えていないようで、「次なんだっけ？」と友だちに聞く姿もあった。いざ音楽が聞こえると「あーアヒルか」と笑いながら納得していた。日本語での鳴き声はすぐに言葉に出るが、「英語では？」と問いかけると「んーわからない」と知らない様子が見られたり、「先生は知ってる？」と興味深そうに質問をする子どももいた。



5－①振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】

何となく聴き馴染みある曲だったので、意欲的に声に出して歌う姿が印象的であった。動物の鳴き声では、日本語の言い方であるを知っている子どもが多かった。さり気なく保育者や英語講師が英語で鳴き声を伝えると、近くにいた子どもが口元に注目し、興味をもち始めた様子も見られた。

【次回への問い】

英語で動物の鳴き声を知ると、また違った反応や気づきが出てくるのではないだろうか。それと同時に、様々な言葉の理解も深まるのではないだろうか。

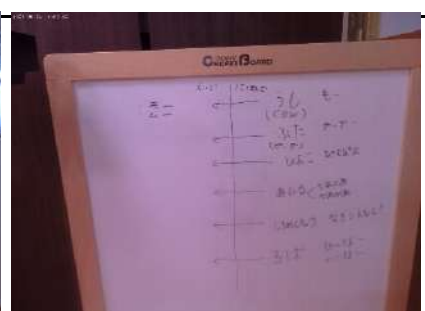
4－②探究活動の実践

<活動の内容>

4.5歳児：CD「ゆかいなまきば」を英語で歌う

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「ゆかいなまきば」を英語講師に英語で歌ってもらった。子ども達にとって英語の鳴き声は思いもよらないものだったようで「えーなにそれ」「なんかおもしろい」と楽しんでいた。今回は立って歌を歌ったことで身体で表現する楽しさを感じている子どももいた。英語講師の動きを見ながら、意欲的に真似をして楽しむ姿もあった。踊りが終わると「牛はモーモーじゃなかったね」等、日本語と英語の違いに気づき、友だちに伝える姿があった。保育者が「英語でなんて言った？」と聞くと「ムーだった」と自信をもって答えていた。



5－②振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】

英語で「ゆかいなまきば」を歌った際も意欲的に声に出して歌っている子どもが多かった。英語と日本語の違いに気付き、すぐに覚えて声に出す姿に子ども達の吸収力の高さを感じた。また、英語と日本語は違う言語でありながらも、言葉の意味は一緒であることを知ったり、多言語に対する理解が深まったりする等、声に出して相手に伝えようとする気持ちの大切さを自然と身に付けることができたのではないかと思う。

【次回への問い】

乳児クラスでは、実際に動物の鳴き声を耳で聞いてみると、子ども達はどのように感じるのだろうか。

4－③探究活動の実践

<活動の内容>

1.2歳児クラス：動物フラッシュカード、どうぶつのなきごえ図鑑に触れる

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

英語講師とフラッシュカードを見ながら動物の鳴き声を言ってみた。「ゆかいなまきば」の歌に出てきた鳴き声を覚えている子どもは、英語講師の言葉のあとに続いて真似をしていた。とくに牛などの簡単な英語は、繰り返し言葉で伝えようとする子どもが多かった。また、どうぶつのなきごえ図鑑では、それぞれイラストを見ながら「うしさん」「とり（にわとり）さんだね」等、鳴き声を聞いて日本語で答える姿も見られた。



5－③振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】

図鑑を用いて、実際に耳で鳴き声を聞いた際は「何の音？」と興味をもつ子どもが多く見られた。鳴き声においては日本語が主であるが、初めて英語の鳴き声を聞いた際は、不思議そうな表情をしていたが、耳にした鳴き声を真似して言ってみようとする子どももいた。また、子どもの方から意欲的に音が鳴るボタンに触れて、様々な鳴き声を知ろうとしていた。

【次回への問い】

動物だけでなく、様々な音（日本語と英語）に注目してみたら、より関心が高まるのではないだろうか。

4－④探究活動の実践

<活動の内容>

3歳児クラス：乗り物フラッシュカードを英語のレッスン中に使用する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

様々な乗り物の擬音語の英語を講師に教えてもらおうと、ジェスチャーを含めて一緒に楽しむ姿が見られた。日本語で「ビューン」「ポッポー」と馴染みのある言い方を多く、英語だと「ビッピーなんだね」と確認をしている子どももいた。何度か繰り返していると、次第に覚えていき、英語の擬音語を理解して自信をもって復唱していた。



5－④振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】

乗り物が好きな子どもが多かったため、とても興味をもっていった。日本語と変わらない英語（バス等）は意欲的に声に出していた。また、日本語ではほとんど使うことのないオノマトペに最初は不思議そうな表情で聞いていたが、一つひとつの語感が面白いため楽しそうに真似をしている姿が印象的だった。動物の鳴き声だけでなく、乗り物の擬音語等、様々な音に触れていく中で言葉への関心も高まっているように感じた。

【次回への問い】

親しみのある歌だと、さらに音や言葉に興味や関心が広がる姿が見られるのではないだろうか。

4－⑤探究活動の実践

<活動の内容>

4歳児クラス：オノマトペカード遊び、手遊び：グーチョキパーを英語と日本語で実施する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

はじめに保育者が日本語で「グーチョキパー」の手あそびをする。小さい頃から親しんできた手あそびであるため、保育者と一緒に大きな声で歌いながら手を動かしていた。“グーチョキパー”それぞれの組み合わせに応じて「カタツムリ」「ヘリコプター」「ブランコ」と楽しんで歌う姿が見られた。次に、英語講師が英語で「グーチョキパー」の手あそびをする。リズムは一緒のため、英語講師の真似をしながら声に出して歌う姿があった。

最後は絵カードあそびを取り入れた。絵カードを見てそれに応じた擬音語を声に出して伝えていた。英語との違いに気付いた子どもは「え？」と少し戸惑った様子が見られたが、興味はあるようで友だちと顔を見合わせて笑ったり、音の面白さを聞いたり言ったりしながら楽しんでいた。



5－⑤振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】

日本語で聴き馴染みのある歌や擬音語は自信をもって声に出す姿があった。英語だと多少の戸惑いはあったようだが、“英語だったら何て言うのだろう”と興味や関心をもとうとする子どもが多く、英語講師を注視していた。このような姿から普段から英語に触れる機会があることで抵抗なく素直に受け入れる気持ちが育っているのだと感じた。見る、聞く、話す(声に出す)ということを楽しめる子どもが増えたようにも感じた。言葉だけでなく、オノマトペという普段触れる機会がない英語での言い方も知ることができ楽しい学びになった。

【次回への問い】

親しみやすい手あそびであることが分かったため、5歳児クラスでも日本語と英語の違いを感じつつ、新しい発見があるのではないだろうか。

4－⑥探究活動の実践

<活動の内容>

5歳児クラス：手遊び：グーチョキパーを英語と日本語で実施する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

4歳児クラスの内容と同様に、はじめに保育者が「グーチョキパー」の手あそびをする。子ども達は保育者の動きに合わせて「右手がグー、左手がチョキで…」と手で表現しながら”カタツムリかな？”と想像を膨らませていた。しかしそこで保育者が「アイスクリーム」と伝えると予想が外れたことに少し驚きつつ、子ども同士で笑い合っている姿も見られた。次に英語講師と交代し、英語で手あそびをする。英語での手あそびも何度かしたことがあったため、すぐに言葉やリズムを思い出して繰り返し手あそびを楽しんでいた。



5－⑥振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】

以前も何度か英語で手あそびをしたことがあったため、ほとんどの子どもが声を出しながら一緒に楽しんでいた。保育者や英語講師ではなく、子どもが前に立って「Rock」「Scissors」「Paper」と自信をもって英語で言ったり、「Right hand is…」と言いながら”何をつくろうかな”と子ども自身がその場で考える姿があり、“考える力”も育つことに繋がっているのだと感じた。時折、うまく英語で伝えられない際は、保育者や英語講師がさり気なくヒントを伝えていき、より自信へと繋げていけるように見守った。

【次回への問い】

親しみのある歌を用いたことで、より興味や関心が広がり、英語の時間以外でも手あそびを楽しむ子どもがいたため、他にも様々な歌を通して英語や日本語での違いを感じながら、みんなで歌ってみることも楽しいかもしれない。英語講師は週2階来園し終日園にいるが、年度で担当講師が変わる。他の国籍の講師が担当になった場合は、子ども達はどんな反応をするだろうか。